

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	葛飾区子ども発達センター			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数)	39
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援センターの指定基準に従い、経験豊かな専門職を配置することで、地域の医療的ケア児、重症心身障害児、発達課題の大きいお子さんを優先的に受け入れてきている。	・多職種チーム(多角的な視点)による支援を実践している。 ・支援開始前後で必ず打ち合わせを行い、子どもの特性を把握するとともに、支援方針の共有に努めている。 ・職場内研修(OJT)や外部講師による専門技術研修を定期的で開催している。	・今後とも、多職種チームによる支援を実践することで、子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を適切に分析した上で、児童発達支援等のサービス提供を行っていく。
2	・事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫している。	・「遊び」を通して、子どもの自尊心や主体性を育て、個々の成長に合わせた支援を行っている。 ・季節やその月に合わせた行事など、様々な経験ができるように工夫している。 ・集団支援と個別支援を組み合わせることで、お子さんの発達を促している。	・職員の専門性を深め、支援に生かしていくために、毎年テーマを決めて事例検討会を開催している。令和7年度は、各クラスで「リトミック」に取り組み、工夫・改善に向けて検討を行った。次年度以降も、実践的な取り組みを継続していく。
3	・家族等が参加できるプログラム(講演会、親子交流会等)の提供や、関係機関による施設見学、研修の受け入れ等入れを積極的に行っている。	・各クラスで保護者会や親子参加等の機会を設けている。 ・地域向けに、講演会や研修会を開催している。 ・関係機関の依頼を受けて施設見学や派遣職員の受け入れや交流の機会を設けている。	・児童発達支援センター機能の一つとして、家族支援を強化していく。 ・今後とも、地域に向けて開かれた施設運営を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事故、緊急時、防犯、感染症等のマニュアルは整備されているが、保護者に認知されていない。	・契約時にはマニュアル等の整備について口頭説明をしているが、実際に保護者が目にする機会は少ない。	・「わからない」と回答した保護者の割合が高いことから、マニュアル等を施設内に掲示したり、ホームページで一部閲覧できるようにする。
2	・事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練やBCP訓練を行っているが、保護者に認知されていない。	・保護者に認知されるような情報発信が行われていない。	・「わからない」と回答した保護者の割合が高いことから、今後は『通園だより』を活用する等、積極的に情報発信を行っていく。
3	・施設全体が老朽化している。 ・空間的に狭く、使いづらい部屋がある。	・令和7年度は空調設備の故障等が発生し、子どもたちの生活空間及び職員の執務環境に大きな影響を与えた。	・令和8年度以降に大規模改修工事を予定している。また、令和8年2月上旬に、空調の改修工事を一部前倒して実施した。